

DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

魔炎遊戯



注意

- ※この作品には
火責め・炭化・欠損・精神攻撃などの
暴力的表現が非常に多く含まれます。
これらの表現に対して嫌悪感を覚える方は
絶対に購入・閲覧しないでください。
- ※本番シーンは一切ありません。
- ※購入される方はこの作品に理解のない方や
嫌悪感を覚える方の目に触れないよう
取り扱いには十分お気をつけください。
- ※転売・無断複製・無断転載などの行為は
お止めください。
特に、合意を得ていない不特定多数の方の目に
簡単に触れられる状態となる
インターネット上への無断アップロードは
絶対にお止めください。
- ※当サークルが案内している販売ルート以外で
本作品を購入・閲覧された方のクレームは
一切受け付けません。
- ※この作品はフィクションです。
実際の事件・人物・団体等とは一切関係ありません。
空想と現実の区別がつく成人のみ
本作品をお楽しみください。





私に任せろ！

頑張れ！
姉ちゃん！

おうとも！

私はルル！
このプレット村で
一番の勇者だ！

まあ勇者
といっても
私は勇者の
血筋なんか
別に引いて
いない……

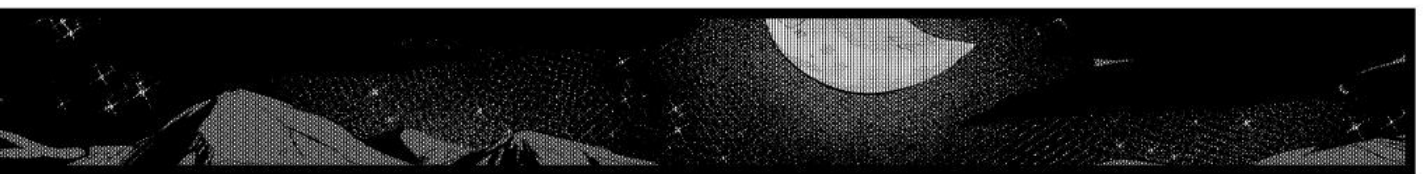
ただこの村に
伝わっている
伝説の勇者様
にだけだし

装備も拾った
素材や投げた
組まれたものを
組み合わせた
仮装のよう……
ものだけ……

きつと私でも
あの方のよう
な勇者になれ
るんだ！
信じてるって



いっぱい
修行を積み
めば
いっぱい
善行を積み
めば

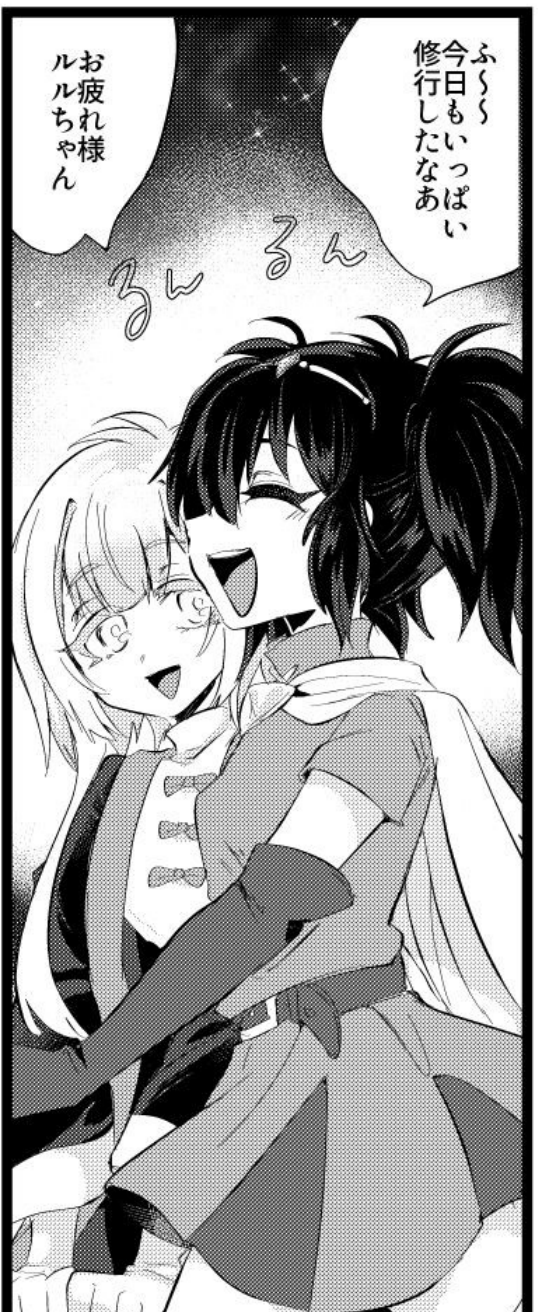


ありがとう
リル！

彼女はリル！
私の幼馴染で
一番のお友達
なの！
この村を支え
る司祭の娘な
んだ！

魔法を扱うの
が得意で
いつも魔法で
治してもらっ
たり早く起き
てくれたり
魔法が使える
の！！
魔法として
魔法にか
くれない
魔法が
使える
の！！

……本当の名前は
メリルって呼ぶだけ
で本当の姉妹みたい
で呼んでいいよ
って呼んでいいよ
って呼んでいいよ



ふっ
今日もいっぱい
修行したなあ

お疲れ様
ちゃん

どうして
姉妹かって……

生まれた村が焼かれて
住む場所を失った
うちの家族は
プレッド村を目指して
いたんだけど……

あと少しのところで
モンスターに襲われて
私だけを逃がして

身寄りがなくなった私の
お世話をしてくれたのが
リルとその家族なのだ

リルのお母さんは
いつかいい面倒を
見てくれたし
大人として
大事なことを
たくさん教えて
くれたんだ！

だから私にとっては
リルは親友で……
姉妹で……この世で一番
守りたいものなんだ

今日もルちゃん
大活躍だったね！

ふふーん
このくらい
当然だよ！

勇者はみんなに
頼られるもの
だからね！





近くに感じるのに
モンスターやが
自然そのものが
想像以上にくる
牙を剥いてくる

禁忌の地と
言われる
だけあって
道中は困難
だった



…回復力がある
…サボリや防具の
しなくていい
炎の洞窟への道
半分は困難だ
なにかあった
と思う着けら



私達はお母さんの
病気を治すため
万病の薬を摘み
奇跡をとつた
禁忌の洞窟へ
炎の洞窟

——ここが

ブクリ

炎の洞窟
なんだね…！

うん！

あと少し
頑張ろうね！

いろいろと
大変だったけど
ここまで来れたね
ルちゃん…！！

うん……

すごい……
私達本当に
辿り着けたんだ





この地だね

我らが戦く
偉大な神様が
おわすの

この神様は
炎を司っている

命が炎にまかれて
燃え尽きるのを
見るのが大好きで……

だから表の人間は
神様のことを
邪神だ悪魔だと
誹りこの地を
禁忌の地としたの

ひどいこと
だね

でもね
神様に帰属を誓い
忠誠を示した
敬虔な者には
愛と恵みと力を
お与えになる
素晴らしいお方で……

り、リル……
なに言ってる……

そうだ！
ルルちゃんに
特別に見せて
あげるね

これが神様に
愛された印だよ

素敵でしょ？

なんだよ
それっ……

うん？

これがこの地と
村の真実だよ

ルルちゃん以外は
みんな知ってる

ルルちゃん以外は
みんな神様に
愛されているんだよ

あれ？
そういえば

みりんちゃん
優しかったよね

なんで
だろうね？

や、やだっ
やめて！

鈍く
ルルちゃんでも
気づいてしまった？

そう、

ルルちゃんに
村の神様の
ために今日
育てる

やめてよ!!!



あまりの贅を
おくれめで

初めて目の
贅で削が
ないか
は

おはなす

!!

おはなす



うむ

なかなか
心地よくに
召喚だったぞ

こ、光栄で
ございます



あ、あああ
神様……！

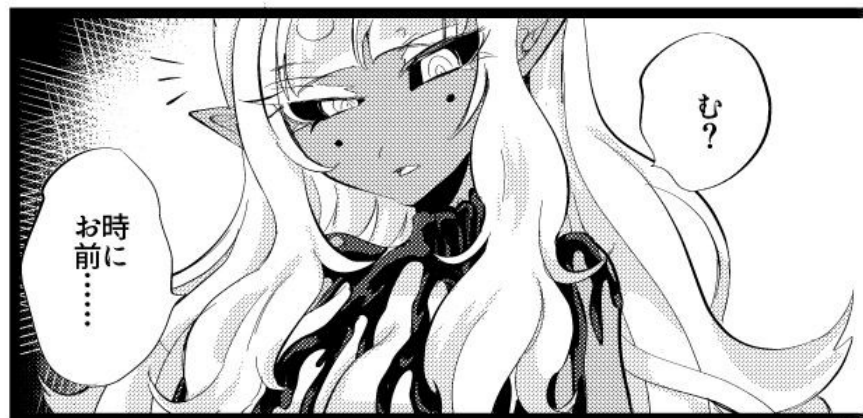
お会いできて
嬉しい限りです

あ……

あ、
あれが……



リルが……
みんなが信仰する
神なのか……!?



む？

お前に……

もしや
シエリルの
次代の司祭か

はいっ
シエリル
の娘です

ほお

贅をなるべく
傷つけずに
ここまで
連れてきて……

粗相無く我を
呼び出すとは……

母並とはいかずとも
その歳にしては
十分すぎる技だった

……!!

これは我が
心をこめて
祝福して
あげねばな

さあ
こちらへ
おいで

はいっ

存分に
私の熱を
味わうがいい

開口を
て







燃えてる!?

嫌あああ!!

クク!
すい反応を

消えてっ

は、早く!!

あぐっ!!
熱い!!

あーあ
手袋なんの
役に立って
ないね

ルちゃんてば
ちゃんとした
草の装備なん
だもんね

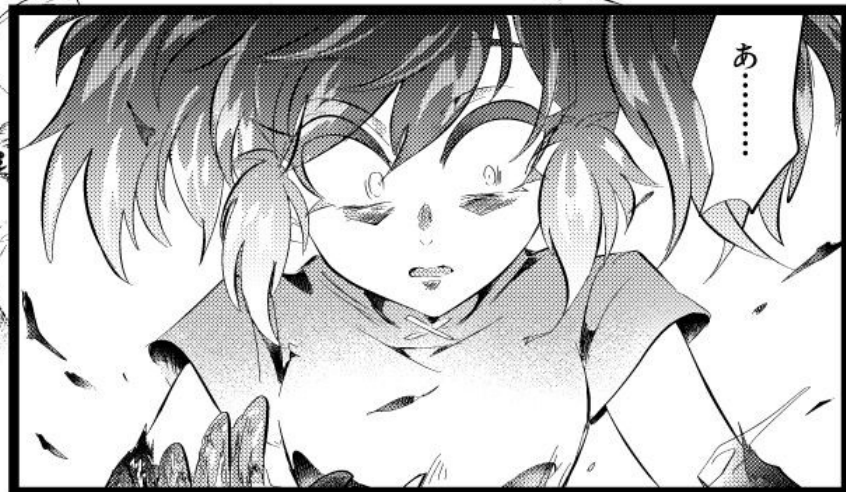
よからう
拘束を解いてやる
己の手で
消してみせよ

はあっ

はあっ

なんでっ

消えてよお!!









ククッ
綺麗な脚が
真赤な炎に
飲まれたて
しまったなあ



そら
皮膚が焼ける
いい香り
漂い始めるぞ



ああ……
久しく嗅いで
いなかった
いやにそそ
られるかな

助けっ……!!
ひぎッ……あああ

—そうだ
もっと火力を
あげてやろう

もっと淫靡な
芳香を放て



ギアアアア!!

脚があッ!!
焼け……!!
あづい……!!

やめてエえ!!



いやああ
起きたく
ないいい
——ッ

痛いのッ

痛すぎる
のにいい

ゲホッ!!

気絶うつッ
できないいい
だすげでえええ

アッハッハッハ!
粹なこと
はてなく
でしな
メリル!!
かるを

ああっ
光栄ですッ

ツツぎイイッ

!!

クククッ
親友がお前のために
手を尽くしているのだ

ほうら……
皮膚の表面を
炎が這いながら
皮膚を犯すの
を感じろ

痛いイイ!!
いだいイイ!!
いだいイイ!!

報いてやるのが
道義である?

やめでええ!

助けてええ!!

自分の肉が
焼べられること
で
発生する臭いで
その肺を満たせ

無邪気に大地を
踏みしめていた
両足の指が
熱に溶かされ
癒着していくの
を
確かめろ

火っ、ひ、火ッ
誰か消してッ

りるっ
たすけてっ

死んじやう!!

この火に
殺されるのおお

骨の表面まで
突き刺さった炎熱が
自分の体をモノへと
変えていくのを
為す術もなく感じろ

あ、あしがっ
う、うう
動かせないのおッ



ククク
辛そうだなあ？
だがまあ
このくらいで
よからう

脚の炎は
消してやろう



火がッ……
ほんとに……

ヒッ……
ぐうッ……

おやあ
骨が丸裸に
なっちゃったな

……そうそう



!!



心配しないで
ルルちゃん

死にそうになつたら
何度でも何度でも
何度でも何度でも
蘇生させてあげるよ



神様が満足するまで
絶対死なせないよ

嫌アああッ







たぐさん
怖がらせて
しまったなあ

クククッ……

ア……
そんな……

でも大丈夫……
ここまですらば
最早痛みすら
感じなくなるはず



—だから

こんな風に
断面を
爪で撫でも
平気というわけだ

ひいひいッ!!



ククッ
撫でるたび
お前の身体が
崩れていくぞ

おやあ?
どうしたんだ
身体が跳ねている
じゃないか

ほっ
骨を伝って
感触があつて

ひぎつい
撫でるの
やめてええ!!





たっ
たすけ……
ああああ



痛みも格別
だろう？



舌ツ
痛い痛い痛い!!

お願い
離してエ!!

痛いのおおあああ



あゝルルちゃん
目が真っ赤♪

ククッ
大声を上げて
喜びおって

そんなに
気に入って
くれるとは
我も嬉しいぞ

こっちの目は
もう使い物に
ならないけど

燃える火のようで
すっごく可愛いよ



自分の「中身」が
焼けるところを
目にしてもらいたい
のでなあ



そうだと
とっても美しいぞ

もう片方の目も
舐って焼いて
あげたいが



火力は弱めにな
してやるからな

皮膚が焼ける
程度の熱さに
留めてやるさ



ひいひい!!

まずはその
邪魔な服を
取っ払うと
しようか



あたしの
服がああ

まだそんなものを
気にしておったのか

愉快な奴め

安心してろ
消し炭には
しないぞ

あっあああ!!



さて
腕を拘束して
起こしてやる

そして我が
この服を脱がせて
この世に
残してあげよう

少しだけな

ああアあ!!

それっっ♪

剥皮勢ふ
しまか痛い
まつれ余
たてで

痛いッ!
か皮が
剥がれてるうう

ハ
ーッ
ッ

焼ける痛みとは
また違った
苦しさがあって
さぞ面白からう?

もっと
剥がして
しまおう

ひギイッ!!



はっ、り、
リルッ……!?

ちゃんと
見えるように
手伝って
あげるよ♪



自分が
どうなってるか
もっとちゃんと
見たいよね?



あはっ
ルちゃん
真っ赤に
なった

ひゅっ…
ひゅっ…
ひゅっ…



どお? 神様に
可愛された身体は
可愛いでしょ?

嫌アああ!!

ヒィィイツ!!

魔法で鏡を
作り上げて



?!



あ……？

あああッ!?

腸の感触は
いいものだなあ

お腹の中
入ってるうう

なっ
撫でないでええ

そら
弦を奏でるように
撫でてやろう

アアああ!!

気持ち悪っ……
おこっアッあ!!

おおい体温が
伝わってくる

ふふ♪
苦しそうに
脈打っておるぞ

うぐうっ

一撫でするたびに
震えてまあ……

さぞ苦しいの
だろうなあ

苦しいのおお！
こっこんな感触
知りたくないいい！！

離してええ！！

知りたくなくても
我が教えてやると
言っておるのだ

ハハハッ
上から下から
お漏らしから

ううう
ぐうぐう！！

苦しい
痛い
苦しい
痛い
苦しい
痛い
苦しい
痛い

お願いもうイヤ
もうイヤもう無理
もう耐えられない
嫌嫌嫌イヤいや嫌
いやいやイヤあああ



もおいやあ……
こころしてえ……
もうころしえ……っ

もおお……
死なせてええ



あ……

ん？



ころして、っ
こっころして
ください……っ

殺してころしてっ
ころしてっ……

おねがいます
おねがいます
ころして
ころして
おねがいます



腸を直に焼いて
こちら側に
連れ戻してやろう

おはよう賛よ
正気に戻って
くれたかな

もつとも、
内臓を焼かれては
もう人としては
生きられなくなるが

それは我が
お前を起こす
手間で良いだろ

イヤアああ！

おやこれは
子宮かな？

クククッ
焼いてしまっ
てはもう孕めな
くなくなっ

アアアアあ
ああッツツ！！

あーもう料理
の美味いも
ないね

あたしを正気に
戻さないでええ！！

戻りたくない！！

おやおや
お前が動けな
いから





そう！

このおかげで
脚が砕かれても
焦がされても
腸が潰れても
絶えて来ない
ように



—なあ
覚えてるか

お前には今
魔法が
掛けられて
いると



意識を失いかけた
ところで強制的に
覚醒させる作用と

その覚醒を
保つための
ある程度の
緩和する作
用がある
緩和する作
成りわさっ
り立つての



さて、私の
可愛い贄よ



ククク

まあ仕組みは
こういうことだ





ギッ……



—さよなら
ルルちゃん♪



さあ

至上の痛みを
味わいがいなら

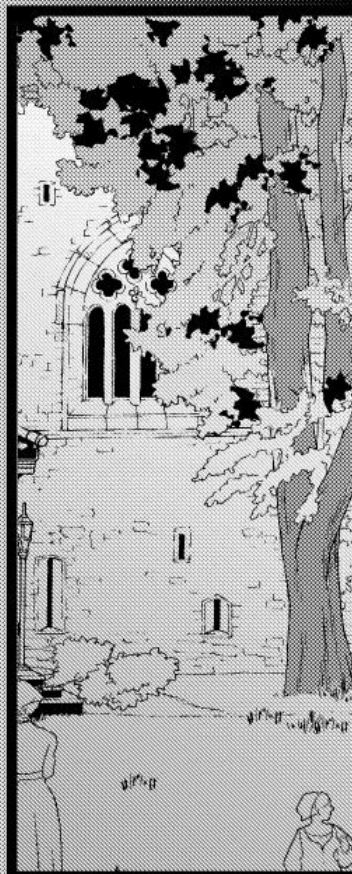


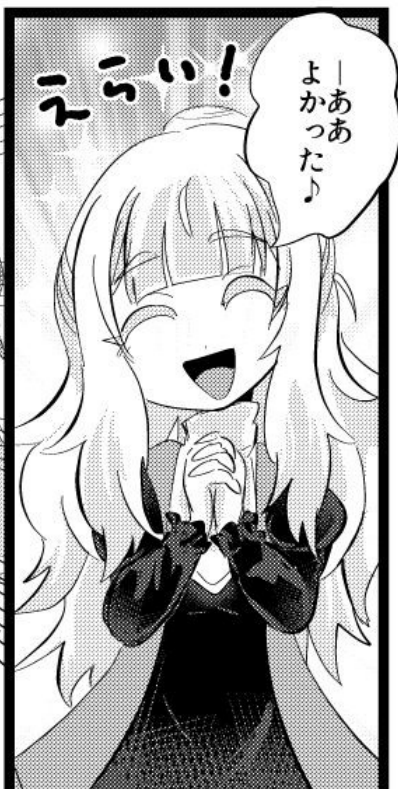
愛しい子

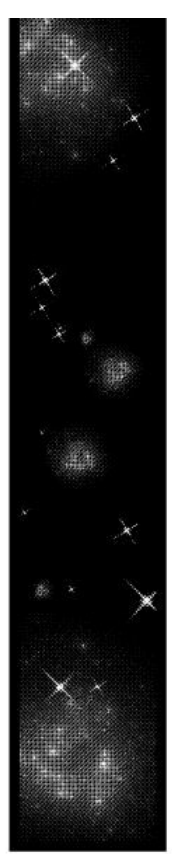
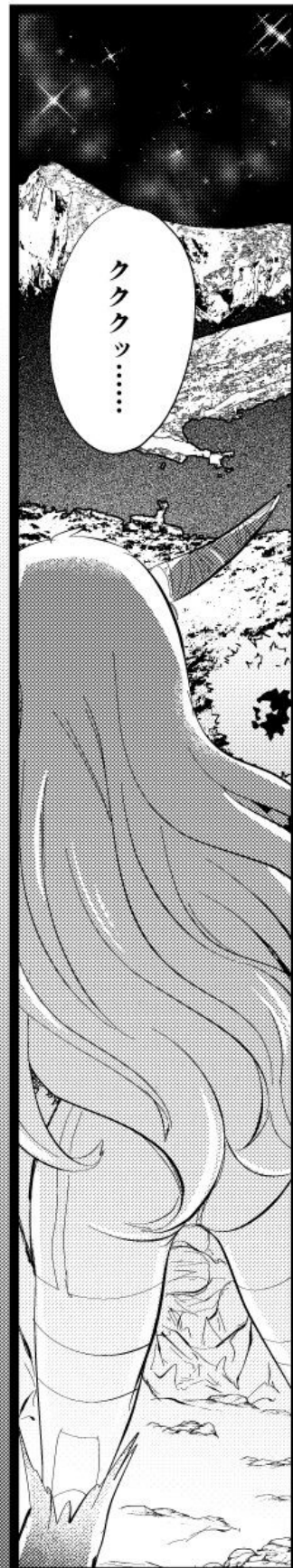
我の火に飲まれる
幸福に包まれてる
お前は美しいよ

さあ、その身を
薪として
我が炎の中で
眠りなさい









あとがき

こんにちは、KOALAです。

因習の村っていいですね。
ホラーやミステリーの定番でエモの宝庫。
謎の神様に捧げる変な儀式とかときめきがありますね。
そんなわけで今回はそんな萌えの発露と黒白目と欠損と
いつもの火傷萌えのよくばりセットのつもりで描きました。
これを読んでくれた方が「なんだかお得～」って
気持ちになってもらえたら幸いです(?)
あとこの子好きだな～とか、こういう展開好きだな～って
思ってもらえたら超嬉しいです。

いつも支援してくれる方々、手にとってくれた方々、
本の完成を応援していただいた方々、
本当にありがとうございました！みんな大好きです！

奥付

発行日:2019年12月30日
発行者:ねじやのひと(KOALA)
印刷所:ホープツーワン様
連絡先:njy@272.moo.jp

Website:<http://272.moo.jp/>
Pixiv:372173 Twitter:272njy

この作品には火炙り、炭化、
四肢欠損などの暴力的な表現が
含まれていません。

ねじやのひと
2019/12/30